

---

## 2. 調査結果

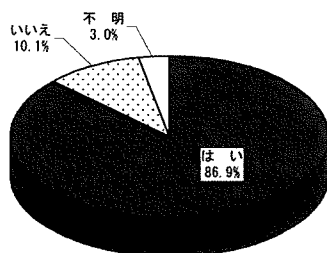
---

### Ⅱ. 保健師助産師看護師国家試験対策について

#### (3) 学生の業者模擬試験参加状況（問4）※国家試験への対策をしていない大学

・対策をしていない大学のうち86.9%が学生主体で業者の模擬試験を受けている。

《学生の業者模擬試験参加状況》



全体 (n=99)

---

6

---

## 2. 調査結果

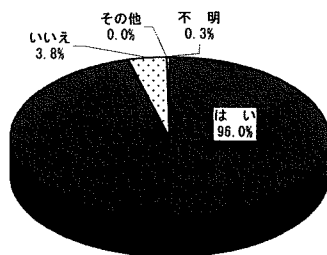
---

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (1) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の認知状況（問1）

・全体の96.0%が国家試験出題基準を知っている。

《「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の認知状況》



全体 (N=346)

---

7

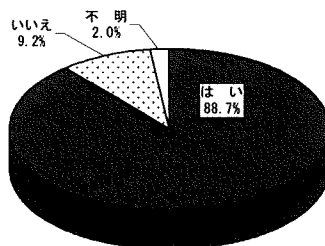
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (2) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の活用は教員個人の判断に任されるか (問2)

・全体の88.7%が国家試験出題基準の活用を教員個人の判断に任している。

《「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の活用は教員個人の判断に任されるか》



全体 (N=346)

8

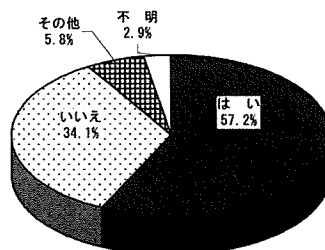
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (3) 積極的に「保健師助産師看護師国家試験出題基準」を活用しているか (問3)

・全体の57.2%が国家試験出題基準を積極的に活用している。

《積極的に「保健師助産師看護師国家試験出題基準」を活用しているか》



全体 (N=346)

9

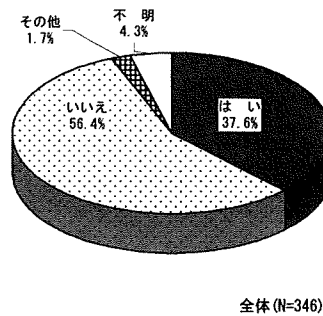
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (4) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の**内容**に基づき、領域間、教員間で連絡・調整があるか (問4)

・出題基準の内容に基づいた領域間、教員間での連絡・調整が行われているのは全体の37.6%となっている。一方、連絡・調整が行われていないのは56.4%で、全体の過半数を占めている。

《領域間、教員間で連絡・調整があるか》



10

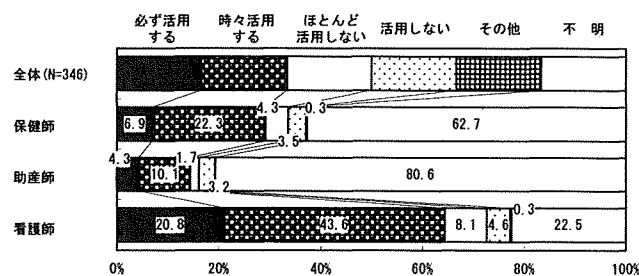
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (5) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の**授業・演習**への活用度 (問5)

・保健師は「活用しない」が62.7%で最も多く、助産師も「活用しない」が80.6%で最も多い。看護師では「時々活用する」が43.6%で最も多く、次いで「必ず活用する」(20.8%)の順となっている。

《「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の**授業・演習**への活用度》



11

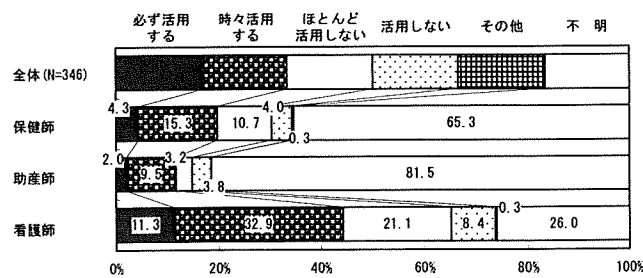
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (6) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の「実習」への活用度（問6）

- ・保健師は「活用しない」が65.3%で最も多く、助産師も「活用しない」が81.5%で最も多い。看護師は「時々活用する」が32.9%で最も多く、次いで「ほとんど活用しない」（21.1%）の順となっている。

《「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の「実習」への活用度》



12

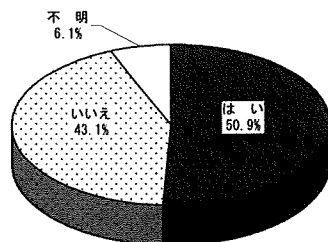
## 2. 調査結果

### Ⅲ. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の活用状況について

#### (7) 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」を自己学習の指標として活用することへの指導の有無と程度（問7）

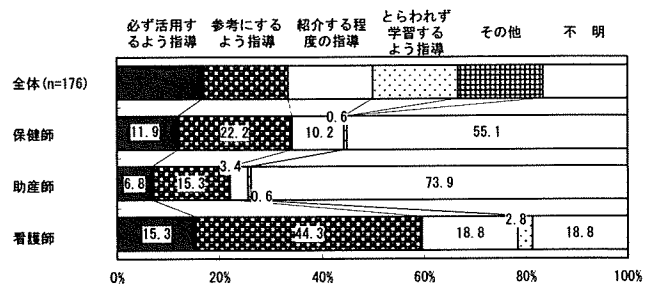
- ・全体の50.9%が国家試験出題基準を自己学習の指標として活用するよう指導している。
- ・指導の程度は「不明」を除くと、保健師と助産師は「参考にするよう指導」（保健師：22.2%、助産師：15.3%）が最も多い。看護師は「参考にするよう指導」が44.3%で最も多く、次いで「紹介する程度の指導」（18.8%）の順となっている。

《指導の有無》



全体 (N=346)

《指導の程度》



13

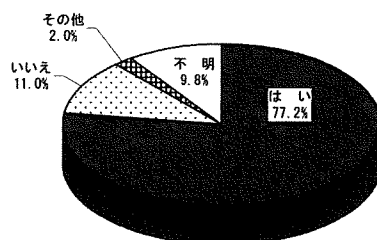
## 2. 調査結果

### IV. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の出題項目について

#### (1) 「国家試験出題基準」は保健師・助産師・看護師として必要な知識を評価できる項目だと思うか (問1)

・全体の77.2%が保健師・助産師・看護師として必要な知識を評価できる項目だと考えている。

《必要な知識を評価できる項目だと思うか》



全体 (N=346)

14

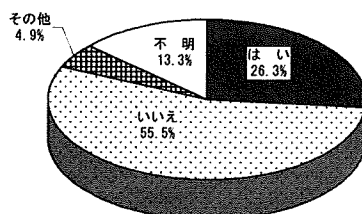
## 2. 調査結果

### IV. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の出題項目について

#### (2) 「国家試験出題基準」は保健師・助産師・看護師として必要な看護実践力(技術)を評価できる項目だと思うか (問2)

・保健師・助産師・看護師として必要な看護実践力(技術)を評価できる項目だと考えている人は全体の26.3%となっている。一方、評価できる項目だと考えていない人は56.4%で、全体の過半数を占めている。

《保健師・助産師・看護師として必要な看護実践力(技術)を評価できる項目だと思うか》



全体 (N=346)

15

---

## 2. 調査結果

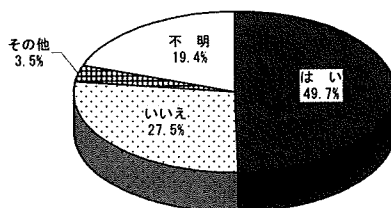
---

### IV. 保健師助産師看護師国家試験出題基準の出題項目について

(3) 「国家試験出題基準」の項目は臨床の場におけるニーズの高い題材を重視しているか (問3)

・全体の49.7%が臨床の場でのニーズの高い題材を重視していると考えている。

《臨床の場におけるニーズの高い題材を重視しているか》



全体 (N=346)

---

16

---

## 2. 調査結果

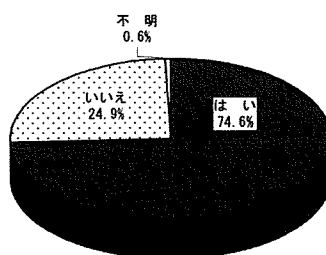
---

### V. 保健師助産師看護師国家試験問題プール制について

(1) 厚生労働省の国家試験問題の「Web 公募システム」の認知状況 (問1)

・全体の74.6%が「Web 公募システム」を知っている。

《「Web 公募システム」の認知状況》



全体 (N=346)

---

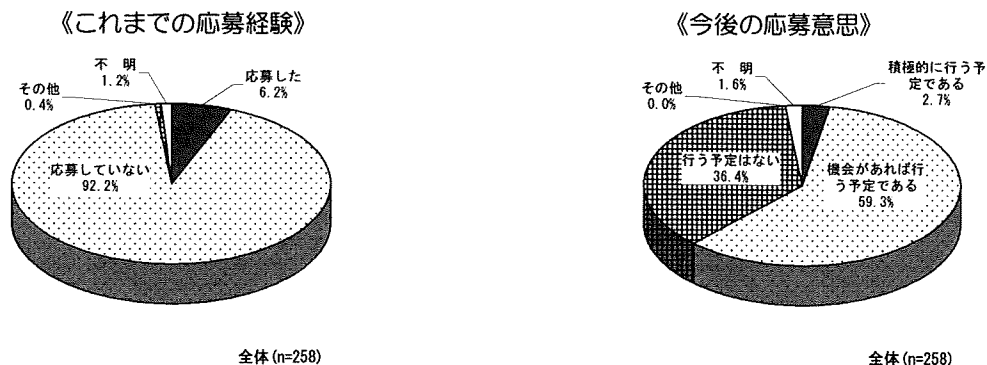
17

## 2. 調査結果

### V. 保健師助産師看護師国家試験問題プール制について

#### (2) 厚生労働省 Web 応募システムへの応募について (問2、問3)

- ・全体の92.2%が「Web 応募システム」への応募経験がなく、応募経験があるのは6.2%にすぎない。
- ・今後の応募意志については「機会があれば行う予定である」が59.3%で最も多い。



18

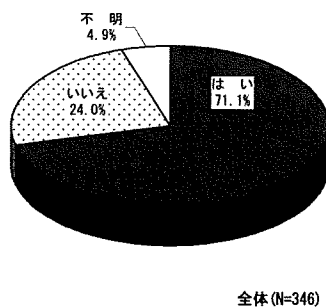
## 2. 調査結果

### VI. 看護実践力を評価する出題について

#### (1) 看護実践力を評価することの必要性 (問1)

- ・全体の71.1%が看護実践力を評価することは必要であると考えている。

《看護実践力を評価することの必要性》



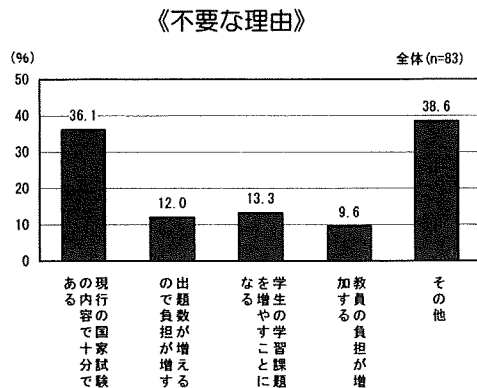
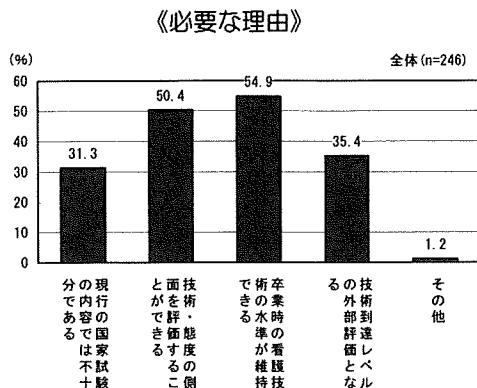
19

## 2. 調査結果

### VI. 看護実践力を評価する出題について

#### (2) 看護実践力を評価することの必要性に対する理由 (問1付問1, 2)

- ・看護実践力を評価することが必要な理由としては、「卒業時の看護技術の水準が維持できる」が54.9%で最も多く、次いで「技術・態度の側面を評価することができる」(50.4%)、「技術到達レベルの外部評価となる」(35.4%)の順となっている。
- ・不要な理由としては「その他」(38.6%)を除くと、「現行の国家試験の内容で十分である」が36.1%で最も多い。



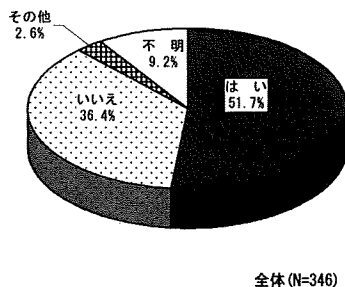
## 2. 調査結果

### VI. 看護実践力を評価する出題について

#### (3) 看護実践力の評価は各大学の看護専門科目の評価で行われていると思うか (問2)

- ・全体の51.7%が看護実践力の評価は各大学の看護専門科目の評価で行われていると考えている。

《各大学の看護専門科目の評価で行われていると思うか》





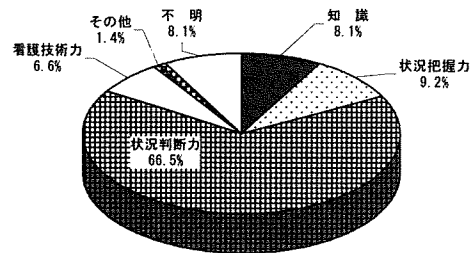
## 2. 調査結果

### VI. 看護実践力を評価する出題について

#### (4) 看護実践力の評価で最も重要なもの（問3）

・看護実践力の評価で最も重要なものとしては「状況判断力」が66.5%で最も多い。

《看護実践力の評価で最も重要なもの》



全体 (N=346)

22

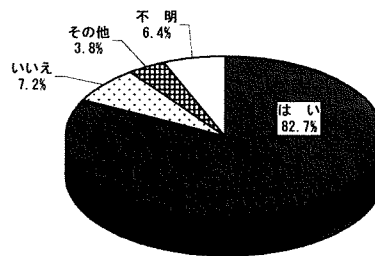
## 2. 調査結果

### VI. 看護実践力を評価する出題について

#### (5) 看護実践力の評価のために看護技術に関する出題は重要だと思うか（問4）

・全体の82.7%が看護実践力の評価に看護技術に関する出題が重要だと考えている。

《看護技術に関する出題は重要だと思うか》



全体 (N=346)

23

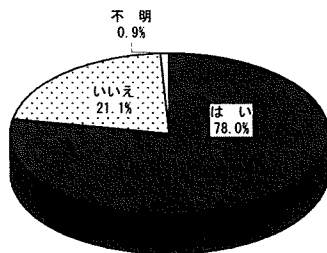
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組みの必要性について

#### （1）OSCE の認知・理解状況（問 1、問 2）

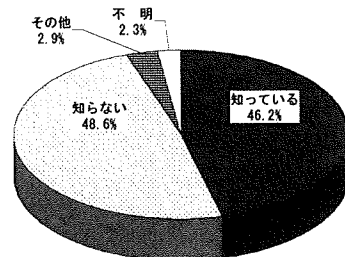
- ・全体の 78.0%が OSCE という言葉を知っている。
- ・OSCE の内容については「知っている」（46.2%）と「知らない」（48.6%）がほぼ同程度である。

《OSCE の認知度》



全体 (N=346)

《OSCE の内容の理解度》



全体 (N=346)

24

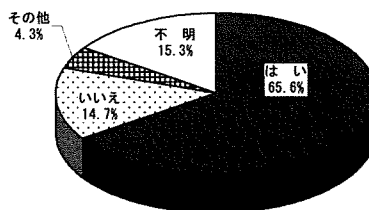
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組みの必要性について

#### （2）看護分野でも卒業時までに OSCE が必要だと考えるか（問 3）

- ・全体の 65.6%が看護分野でも卒業時までに OSCE が必要だと考えている。

《看護分野でも卒業時までに OSCE が必要だと考えるか》



全体 (N=346)

25

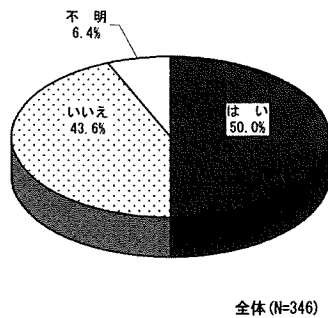
## 2. 調査結果

### VII. 客観的臨床能力試験（OSCE）の取り組みの必要性について

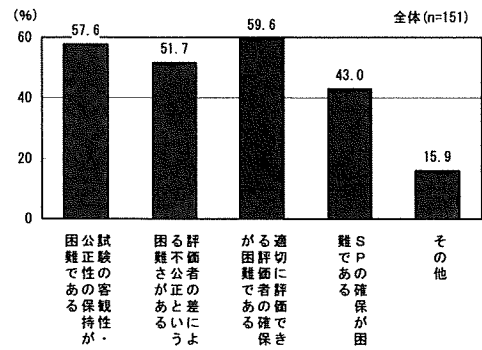
#### (3) 看護師国家試験での OSCE に類似した実技試験導入の必要性（問 4）

- ・全体の50.0%が看護師国家試験で OSCE に類似した実技試験導入が必要だと考えている。
- ・不要だと考える理由としては、「適切に評価できる評価者の確保が困難である」が59.6%で最も多く、次いで「試験の客観性・公平性の保持が困難である」(57.6%)、「評価者の差による不公正という困難さがある」(51.7%)の順となっている。

《必要だと考えるか》



《不要だと考える理由》



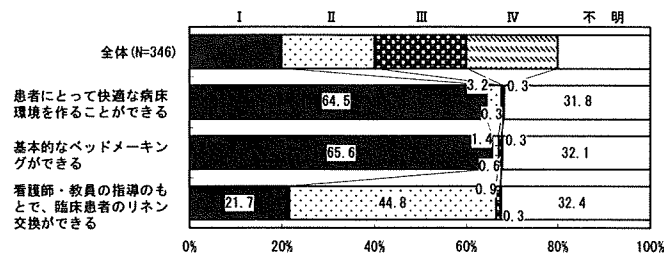
## 2. 調査結果

### VII. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ①環境調整技術

- ・レベル I（単独で実施できる）の達成度が最も高いのは、「基本的なベッドメイキングができる」(65.6%)、次いで「患者にとって快適な病床環境を作ることができる」(64.5%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ①環境調整技術》



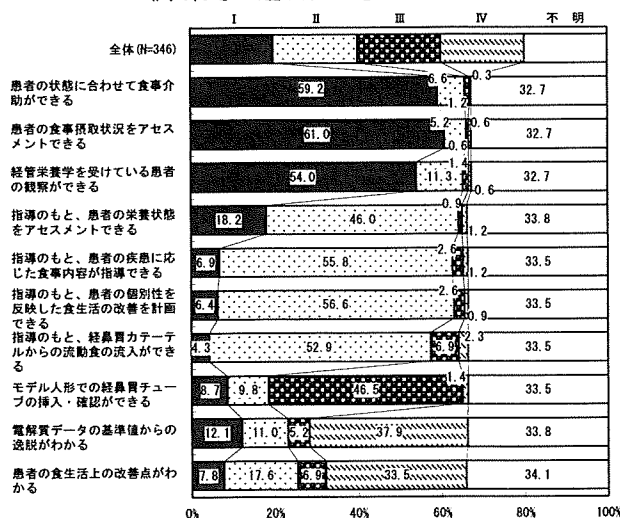
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ②食事の援助技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「患者の食事摂取状況をアセスメントできる」(61.0%)、次いで「患者の状態に合わせて食事介助ができる」(59.2%)、「経管栄養学を受けている患者の観察ができる」(54.0%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ②食事の援助技術》



28

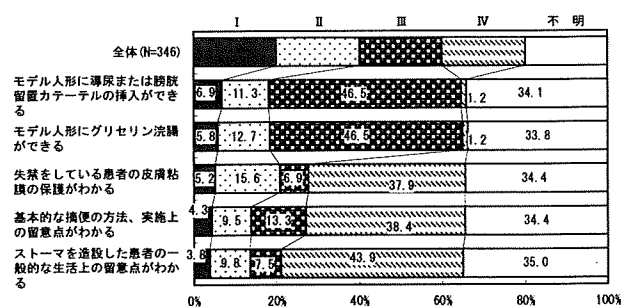
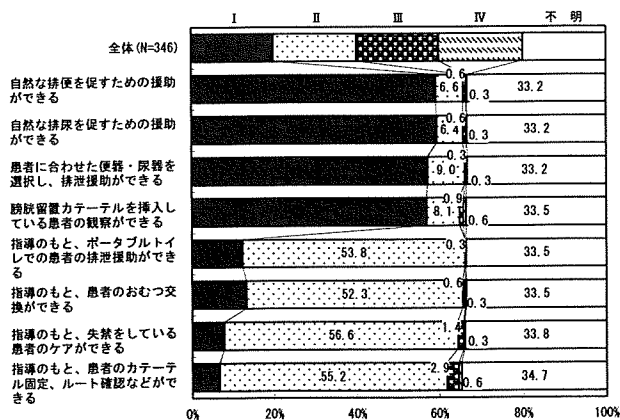
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ③排泄援助技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「自然な排尿を促すための援助ができる」(59.5%)、次いで「自然な排便を促すための援助ができる」(59.2%)、「患者にあわせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる」(57.2%)、「膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる」(56.9%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ③排泄援助技術》



29

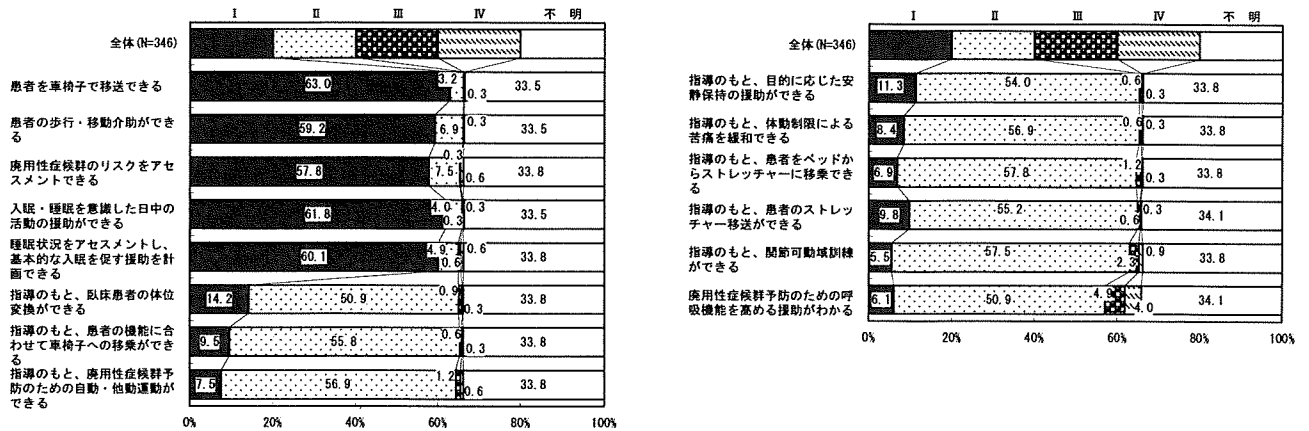
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ④活動・休息援助技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「患者を車椅子で移送できる」(63.0%)、次いで「入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる」(61.8%)、「睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる」(60.1%)、「患者の歩行・移動介助ができる」(59.2%)、「廃用性症候群のリスクをアセスメントできる」(57.8%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ④活動・休息援助技術》



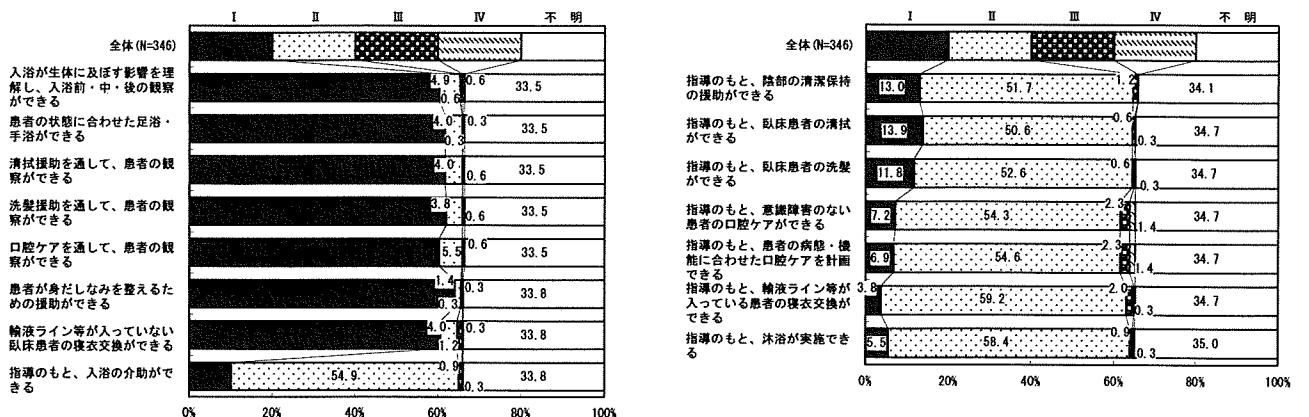
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑤清潔・衣生活援助

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「患者が身だしなみを整えるための援助ができる」(64.2%)、次いで「洗髪援助を通して患者の観察ができる」(62.1%)、「清拭援助を通して、患者の観察ができる」および「患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる」(いずれも61.8%)、「輸液ライン等が入っていない臥床患者の衣類交換ができる」(60.7%)、「入浴が生態に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる」および「口腔ケアを通して、患者の観察ができる」(いずれも60.4%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑤清潔・衣生活援助》



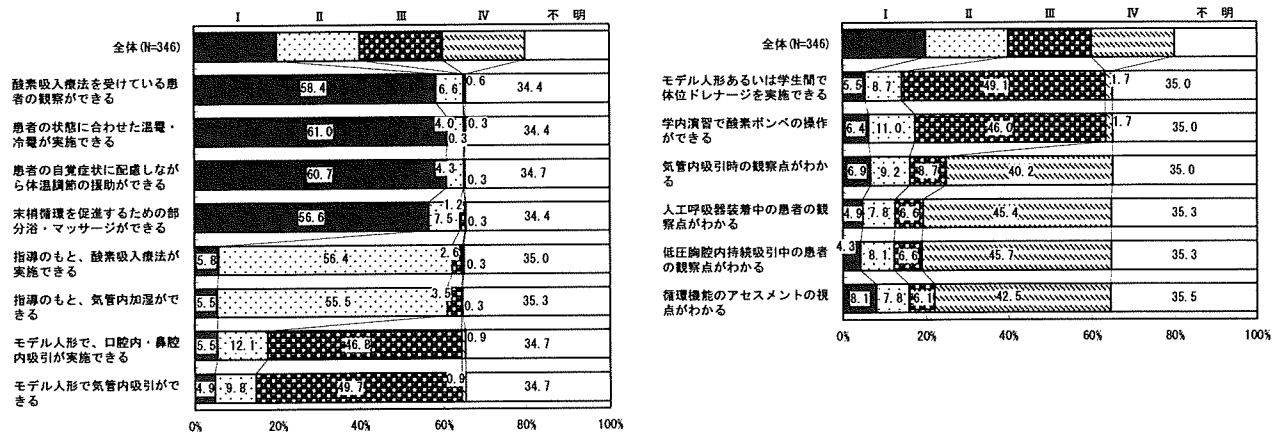
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑥呼吸循環を整える技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「患者の状態に合わせた温電法・冷電法が実施できる」(61.0%)、次いで「患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる」(60.7%)、「酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる」(58.4%)、「末梢循環を促進するための部分浴・マッサージができる」(56.6%) の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑥呼吸循環を整える技術》



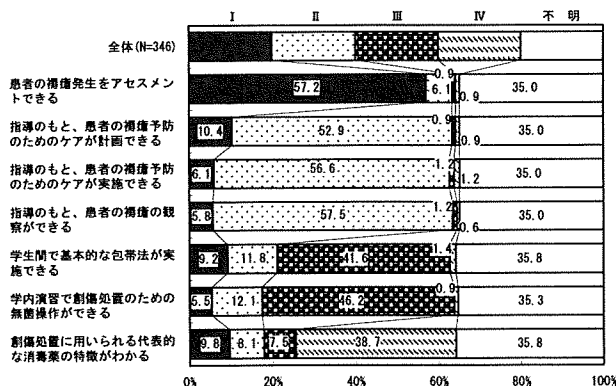
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑦褥瘡管理技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「患者の褥瘡発生をアセスメントできる」(57.2%)である。この他は割合が低く、「指導のもと患者褥瘡予防のためのケアが計画できる」(10.4%)、「学生間で基本的な包帯法が実施できる」(9.2%) の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑦褥瘡管理技術》



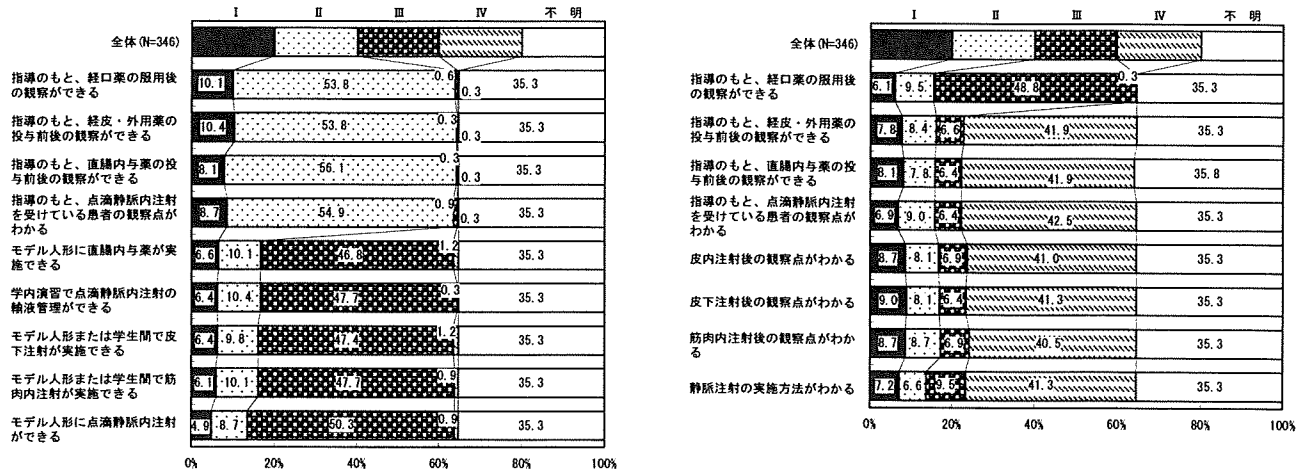
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑧与薬の技術

・レベルⅠの達成度はどの項目においても低く、卒業時の達成度としてレベルⅠの到達までは求められていない。

《卒業時の達成度 ⑧与薬の技術》

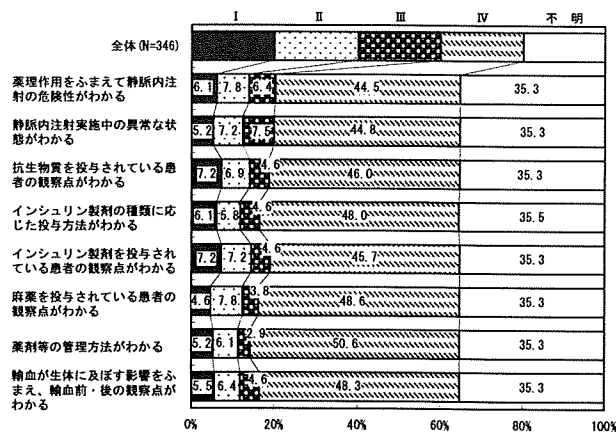


## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑧与薬の技術

《卒業時の達成度 ⑧与薬の技術 (続き)》



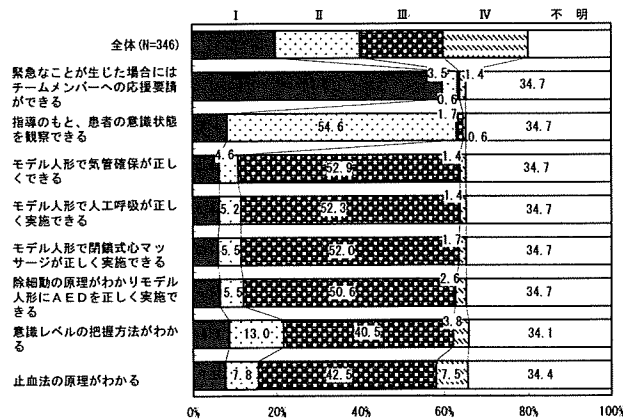
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑨救命救急処置技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる」(59.8%)である。この他は割合が低く、「意識レベルの把握方法がわかる」(8.7%)、「指導のもと患者の意識状態を観察できる」(8.4%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑨救命救急処置技術》



36

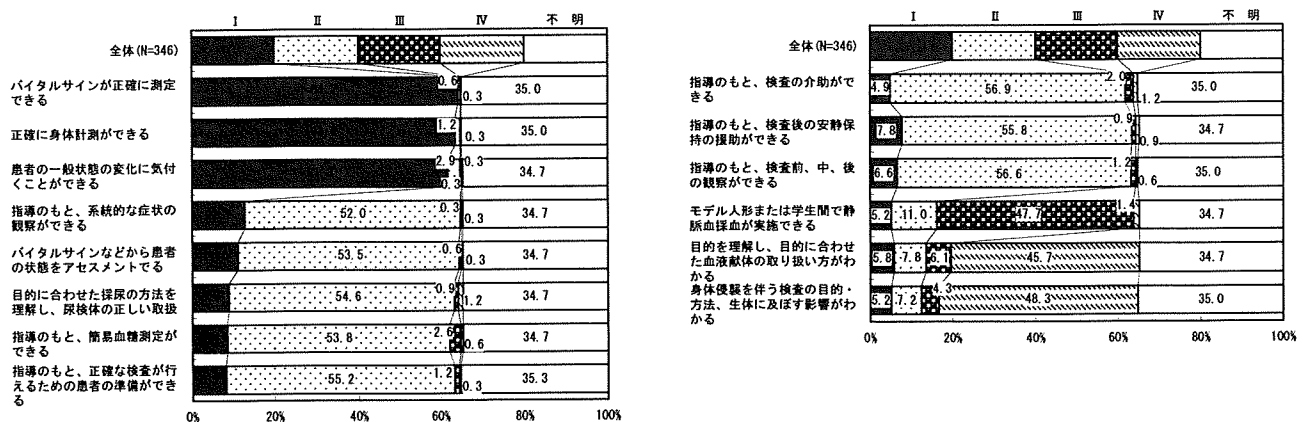
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑩症状・生体機能管理技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「バイタルサインが正確に測定できる」(64.2%)、次いで「正確に身体計測ができる」(63.8%)、「患者の一般状態の変化に気付くことができる」(61.8%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑩症状・生体機能管理技術》





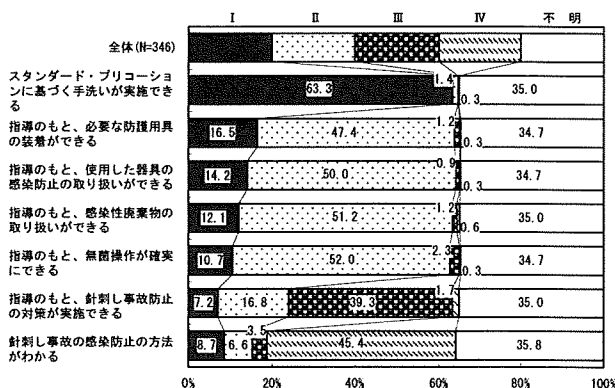
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑪感染予防の技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「スタンダード・プリコーションに基づく手洗いが実施できる」(63.3%)である。この他は割合が低く、「指導のもと、必要な防護用具の装着ができる」(16.5%)、「指導のもと、使用した器具の感染防止の取り扱いができる」(14.2%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑪感染予防の技術》



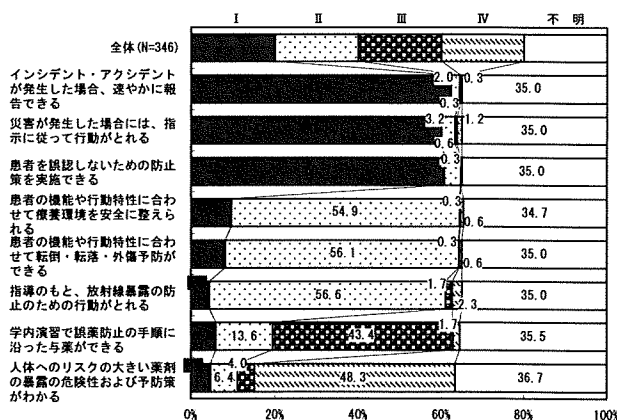
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑫安全管理の技術

・レベルⅠの達成度が最も高いのは「インシデント・アクシデントが発生した場合、速やかに報告できる」(62.4%)、次いで「患者を誤認しないための防止策を実施できる」(60.7%)、「災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる」(60.1%)の順となっている。

《卒業時の達成度 ⑫安全管理の技術》



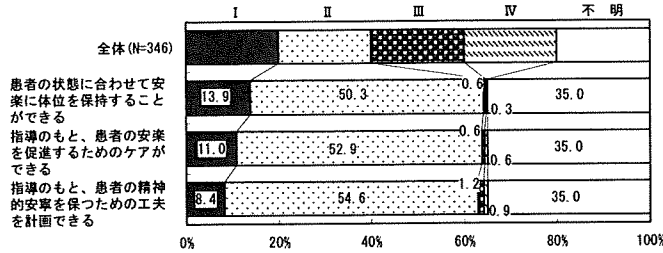
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (1) 卒業時の達成度 ⑬安楽確保の技術

・レベルⅠの達成度は3項目とも低い割合となっている。3項目のなかでは「患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる」(13.9%)が最も高い。

《卒業時の達成度 ⑬安楽確保の技術》



40

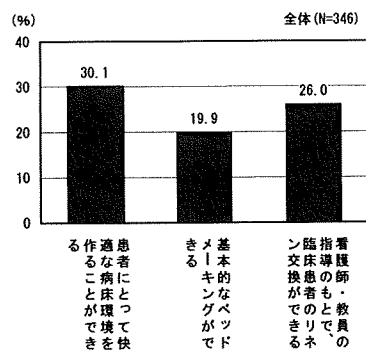
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (2) 出題が必要と考える項目 ①環境調整技術

・「患者にとって快適な病床環境を作ることができる」(30.1%)が最も高く、次いで「看護師・教員の指導のもとで、臥床患者のリネン交換ができる」(26.0%)、「基本的なベッドメイキングができる」(19.9%)の順となっている。

《出題が必要と考える項目 ①環境調整技術》



41

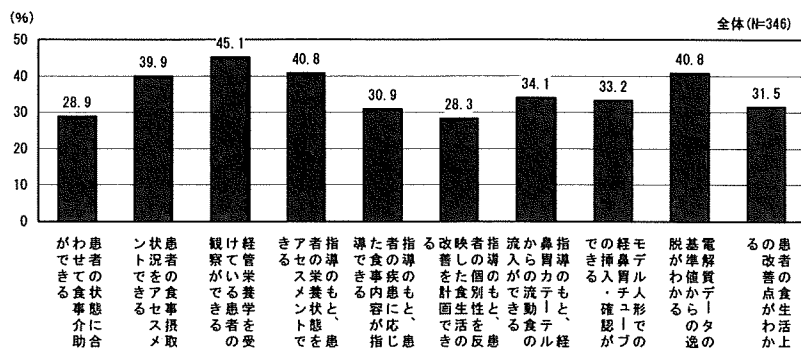
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (2) 出題が必要と考える項目 ②食事の援助技術

・「経管栄養学を受けている患者の観察ができる」(45.1%) が最も高く、次いで、「指導のもと、患者の栄養状態をアセスメントできる」および「電解質データの基準値からの逸脱がわかる」(いずれも 40.8%)、「患者の食事摂取状況をアセスメントできる」(39.9%) などの順となっている。

《出題が必要と考える項目 ②食事の援助技術》



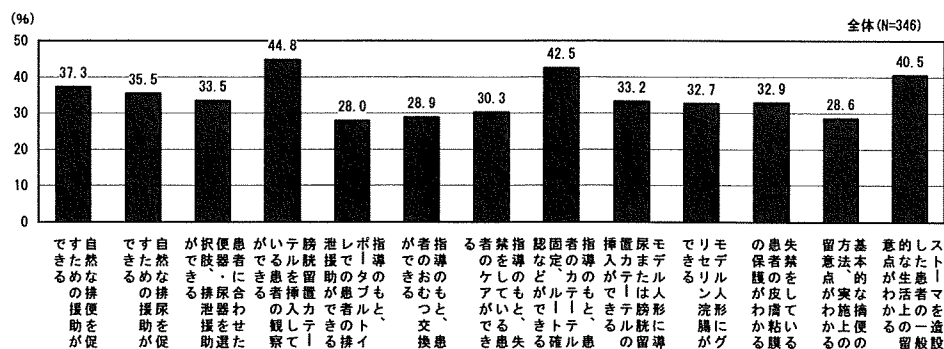
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (2) 出題が必要と考える項目 ③排泄援助技術

・「膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる」(44.8%) が最も高く、次いで「指導のもと、患者のカテーテル固定、ルート確認などができる」(42.5%)、「ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点ができる」(40.5%) などの順となっている。

《出題が必要と考える項目 ③排泄援助技術》



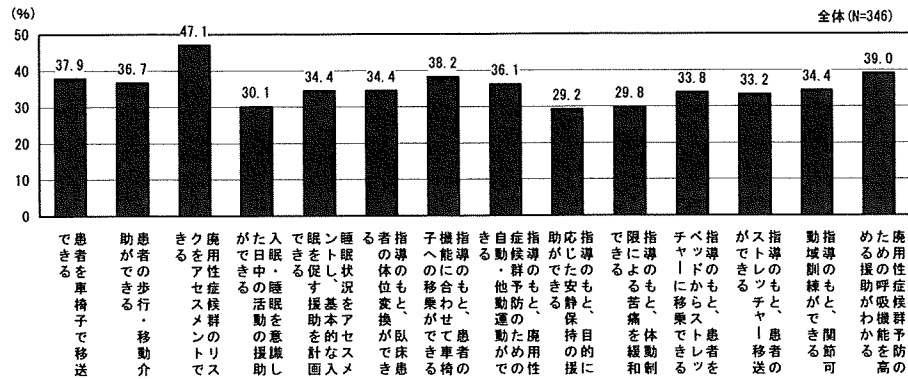
## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (2) 出題が必要と考える項目 ④活動・休息援助技術

・「廃用性症候群のリスクをアセスメントできる」(47.1%) が最も高く、次いで、「廃用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる」(39.0%)、「指導のもと、患者の機能に合わせて車椅子への移乗ができる」(38.2%)、「患者を車椅子で移送できる」(37.9%)、「患者の歩行・移動介助ができる」(36.7%)、「指導のもと、廃用性症候群予防のための自動・他動運動ができる」(36.1%) などの順となっている。

《出題が必要と考える項目 ④活動・休息援助技術》



## 2. 調査結果

### Ⅶ. 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

#### (2) 出題が必要と考える項目 ⑤清潔・衣生活援助

・「入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる」(42.8%) が最も高く、次いで、「口腔ケアを通して患者の観察ができる」(38.4%)、「輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換ができる」および「指導のもと、輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換ができる」(いずれも 37.3%)、「清拭援助を通して、患者の観察ができる」(36.4%) などの順となっている。

《出題が必要と考える項目 ⑤清潔・衣生活援助》

